

第67回全日本中学校通信陸上競技大会千葉県大会 新型コロナウイルス感染拡大防止対策

【大会運営について】

- 三密を避けるために6/26(1日目)を男子種目・6/27(2日目)を女子種目の実施とする。(男女四種競技・男女リレーについては2日間での開催とする)なお1日目は女子選手の観戦及び練習は禁止、2日目は男子選手の観戦及び練習は禁止とする。
- 選手1名につき引率者1名、保護者2名までの入場を許可する。入場者は「第67回全日本中学校陸上競技大会千葉県大会観戦について」を熟読し、「大会観戦承諾書」を当日提出、検温を行うこと。当該選手の競技終了後、会場から退場すること。(応援生徒・付き添いの入場禁止する。)
- 学校関係者(管理職)・市小中学校体育連盟関係者・高等学校関係者の来場については、必ずTICで氏名・連絡先の記入し検温後ADを受け取り入場すること。ADは要返却。
- 生徒役員の配置はしない。
- 競技役員に医師を委嘱する。
- 競技役員は競技役員受付で当日の検温を申告する。
- 全ての大会関係者はマスクを着用する。但し、競技中の選手はマスクの着用はしなくても良い。また、当日の天候により熱中症を予防する観点からマスクを外すことを許可するがソーシャルディスタンスを確保すること。
- 選手は、熱中症を予防するために競技場内へのアイスバック・携帯用扇風機の持ち込みを許可する。
- 競技役員への水分補給は、各自で持参する。お弁当のお茶は提供する。
- 更衣室は競技役員の控え場所とする。荷物の管理は各自で責任を持つこと。コインロッカーは使用可
- 競技場の換気をするために全ての窓は開放する。
- 大会関係者・選手が使用する各部屋やトイレなどはこまめに消毒をする。
- 雨天練習場の水道に手洗い洗剤を用意し選手、競技役員の手洗い場とする。
- 選手控え場所は、陸上競技コンコース、芝生スタンド、第2陸上競技場、陸上競技場周辺木陰とする。必ずソーシャルディスタンスを保つこと。陸上競技場1階軒下に選手控え場所を設置することは禁止する。テントを設置する場合、密閉せずに風通しを良くすること。
- 記録の発表は、アナウンス及びWEBの大会速報のみとする。記録の掲示はしない。
- 選手は競技終了後、直ちに帰宅すること。
- 多くの選手が使用した用器具については消毒を行う。

【競技運営について】

- 選手は、競技開始時間の120分前から60分までにJAAF健康管理チェックシート兼大会参加承諾書をTICに提出する。未提出者については参加することはできない。そのときに荷物入れ用のビニール袋を受け取る。
- 招集係はTICからの情報で招集作業を行う。
- 選手は競技中以外はマスクを着用すること。
- 出場する選手は、下記の通りに集合する。(マスクの着用・三密を回避する)トラック競技はレーンナンバーを受け取り右腰に付けた後、手指消毒をしてから出発係の指示で競技場に入場する。荷物はその場所に置いておく。選手の荷物の運搬は行わない。

競技種目	集合場所	時間
100m 100mH 110mH 4×100mR4走 女子四種競技100mH 男子四種競技110mH	第4ゲート外側	競技開始時刻15分前完了
200m 3000m 4×100mR3走 女子四種競技200m	第3ゲート外側	競技開始時刻15分前完了
1500m 4×100mR2走	第2ゲート外側	競技開始時刻15分前完了
400m 800m 4×100mR1走 男子四種競技400m	第1ゲート外側	競技開始時刻15分前完了
走高跳 四種競技走高跳	走高跳ピット	競技開始時刻60分前完了 競技開始時刻30分前完了
棒高跳	棒高跳ピット	競技開始時刻80分前完了
走幅跳	走幅跳ピット	競技開始時刻60分前完了
砲丸投 四種競技砲丸投	砲丸投ピット	競技開始時刻40分前完了 競技開始時刻30分前完了

- トラック競技でスターティングブロックを使用する種目に出場する選手は、設置前に主催者で用意したアルコール消毒液で手指をアルコール消毒する。
- 密を避けるため1500m・3000mの1組の人数は1500mは12名程度、3000mは18名程度(グループスタート)で行う
- トラック競技はレース終了後、レーンナンバーを外しかごに入れる。その後、第1ゲート付近に手洗い場所を用意するので洗顔・手洗いをしてスタート付近に戻り荷物を持ってベンチへ戻ること。
- 走高跳・棒高跳は競技終了後、荷物を持って第1ゲート付近で洗顔・手洗い、走幅跳・砲丸投は雨天練習場で洗顔・手洗いをしてベンチに戻る。
- 棒高跳・砲丸投で使用する滑り止めは主催者では用意しないので各自で準備する。滑り止めを他人と共有はしない。
- 表彰は簡易的に行う。8位入賞者は、アナウンスの結果やWEB大会速報を見て陸上競技場1階ホールへ集合すること。

以上のように感染の可能性を極力抑えるために入念な対策で大会運営に臨みますが、それでも100%の感染防止をするとお約束することは難しいと思われまます。万が一新型コロナウイルスに感染してしまったとしても、主催者としては責任を負うことはできない点をご了承ください。